李敬齋詩集 上

へ遠13
1296
3

新宝帝王論
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

特
1296
5

京都帝国大学図書

書記村浜川家譜巻之八

同編

一上村吉仲病家保農法事

一上村吉仲の村如よ駿州を道る事

一十月乳母を仲之清親東京を発る事

一上野吉の村如が病院へ来る事

但合湯島壹丁目
中屋吉右衛門

一方の石垣が壊し一方を残す事

並てに長代官七郎兵衛の事

宗教対論淀川宗源書之

方村方中新宮保長の事

方壁方の村数より数事を造る事

長川懐の境内より人数〳〵集り来る

しるべ京淀より出る金銭出接使

此金あり彼石垣が死骸を切る事

ふし懐中かりさいの

新特貴の所出掘

[illegible]
[illegible]
[illegible]

そうらはん歌しうしうなる者の
歌いいうれしきまで万葉ぶり取たくみを
ろうかは長歌ろうかをあらうぶし
百十年を数せしまくいた仲間後
の藻をうらんとあるしこ百五十
彼ら人びよ尖のうまくはるよき
なるはを歌ひおうらた中ま婦
しかくれぶくは発明ふるまを
くなりしまくた仲書のあ物いお
展の年娘ろうくを第量世よ又し
ろうびなくみうたた仲さろ中な
年もたあくいひ好のいまさう
れ花さらいしつくかよを娘
たあよえせくも形しさ彩ひ
もがうる袖のあよ延しせらみも
ろくくくみどりの撃を琴の
みひ柳れ揺たくくし娘よ
ちうぶおりうけよ心をうたた古世

[illegible]くとひとりゐ侍り
ことをもて人形れを唯こゝ迄ら
せしが彼石屋が妻子鶴の
絵をうつしひ海し我あり入し
しかも春ひなりぬ芝てかゝふ
かをたがへ我意の叶ふ春ひ
ぬりをかりをかりをく絵がらかき
人間の情をうめへしるを記れを
なりしあよこの文二年卯月の

芝人つるとうり木仲春きり
の柳まをの遠師の迄
これを標注のものを京しるぶ
まるくしかり京都の宮文四方
田氏うりをく絵りをいを記
みくの書生をるぶくしかばき
ちぶくを芝人やうく海度浦の
多仲春の墨ぢを絵えをれ
く細ぶべしるぶひこをれしば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仕行申も宗道へ打ちませ申日
〻書如ゝ我家の事行ゝ
〻ばあるへ敷ゝ屋〻いひ
分を代言せ〻今を人時郷〻ふ
敷まあ〻二人〻ものゝ分我ゝ
ゝ〻ひ業用れふ〻行ゝ〻つき
家西海〻屋〻〻ゝ又一人も
〻ゝの事をつゝもべ
〻ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

利家中おまつ申ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
十〻〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

清社しる湖よひまゝの神のを
かゝひ日社のおひをきはよ奉ひ
社時神なりゝひはえ奉内
のをゝうゞさいだん堀ふまあやう
よ宮を付た仲のてる十九みと
如きひしゝへよ奉よしけ
ゝ奉ゝ社申を社る神
湖よりて社しゝた仲書するたの
りゝおりをせ社家仲の家よ

出会のゝと現社のつゝあるなん
で生まれひもゝゝ八幡中の
人ゝあゝ湖社家みゝ口
きゝ出ゝ社湖のゝ法のつ愛
なゝで法人ゝゝひゝゝ堀
ぶん義尾ゝく形しば相家東
社時会をなゞけゝ前尾ゝなゞ
ゝかひ国をけゝきひ形
いかゝ申ゝ生活なゝをゝせ

なるい紙にかなどもをるべく
ひしらばはのまする
よかるもく下帝のなるひとつ中
なるで身をなればもの御めんよ
係なるこまゆよ十ばが乳母のつ
みもなるけらしくいけらいえんと
入内のものとせもさしてはの
きれ義のかはれるゝ被乳母
十ばよすく抱せばるあくたつ

はるるまるはいまひとつ命
乳母ばるゝ命よりゝ彫名
中いるものるんせんこと
ものるるはたるるはるるはかふ
かけくのはもるれの中みくゝで
るけるるがりゝ彫名
ゝはばはいごんをるゝ
みくかるんるる乳母ゆのくだ
ふるするはいぶるし

[illegible]
ばかりなる津にてくもをすぎさよ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
屋[illegible]
び[illegible]
[illegible]
我日吉大小の神[illegible]
[illegible]
[illegible]

みなひとりのすまい
をせよせんとおもふ心入し
我ん[illegible]の毎朝つとめ怠
なの情をこゝろ[illegible]たのむこゝ
い今ふうけ[illegible]けるなりこゝひれ
ぢ乳母ゆく相[illegible]ふせい
ぐんをせちすよ相[illegible]
うれ世界の方年の貴一おれ
れりぐ[illegible]の師匠たの
おもうに部屋をおもうせ[illegible]
をゆづりうよ[illegible]
てばうれもんの[illegible]ひみ
ぐ[illegible]業の[illegible]
も[illegible]あも今せいぐよこ[illegible]
くのぢもも[illegible]
ものすと[illegible]
[illegible]へらるべきあ[illegible]
こゝを去[illegible]乳母を[illegible]

我命をはかるすべをわきまへ
一山より知るべきなり おもむき
はしらはしらんまでもせいごん
をやめかくこそば無比事
なるべきなりひとりぶんこつ
よ親母がいきしすがたをのれそう
く山もしよみ所のよたち
ひがりすす親母ゆきをせもんが見人
けるを一刀よりはしらはしるをはり
ちんじぶ首をおとしてもうす
やまもうす母一山よりもむらいする者
ひらくはじめこそ物をわたせ
そうさしらはしこまを物をわたせ
けれの首をアんもうさん記母見
ゆる五言ゆ業より將をまはやよ
するちんとりくいうなぐらたのふ
十年を首をしつんを河をはけよ
よ刀をちふくれひなをわりるを紙

なり。乳母をあつめて、
の一きいとうつくしう
十ばかりにて、
屋きぐるまにて、
人々さぶらひ、
まげさんつまの
くいけ方、
おもつきゆきすんるみ
屋をうつくしう
おもひつきゆきすんるみ
おもひ

よちよめんくくこう所田舍人無しい
のがこと所もあるこそ和歌毋
ちなみの主人の男をと人侍る
こゝろくこゝろひ物をもあるのがる
るゆるりびけ世をくだしてい
こゝけ家のやどりかりに
ありひつめしこゝいかゝ世ゝおるべ
きけみの世ひしるもせひでも毫
毎いちすの傳をしるしあ

ゆりが宮よひしの門のもめぐりいけ
やこの家いさぐ如中のまて如和
みくあのこゝ合をぐこゝるもわく
よゆる如唐みくも宮家ら紀をえん
るゝ社家のあるものうむづきを遣
ゝ如のこうゝとこゝあのかくこゝく
淀の妻史こゝなけ史の図をこの
ぐく置こゝこゝかこゝ世ゝ
こゝしく如中も侍仕侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かまくらびと　まづ
　　海の橋
　　入
　　を
　　懐中
　　乳母
　　十九
　　川
　　第
　　あるいは
　　恋
　　見
　　乳母
　　海
　　みちのくの海

みちのくにたちうせる
　　ぬ
　　いや
　　ぬ
　　表
　　ふり

　　村母の宣旨
　　百
　　を
　　百
　　代
　　百

　　乳母
　　の
　　を
　　世
　　ぞ

かすうゝ後よりこれをすてゝ
しきおうきを初めとしつゝ
ゆくさみふ所境あもかしこさし
田をお初てゝをとゝきこんゝこのゝ
おどろこゝ仲ゝもゝふこれ
こゝむゝ嶋のさゝ衣みぐさい
ぜんゝゝゝ所ゝあゝあつ後
ゝ初ゝのゝゝあばゝゝゝ歩
ゝゝ十年ぐゝゝゝゝゝゝゝ

もゝんゝゝゝゝくゝ此手をゝゝつれゝ
ゝゝおゝゝもゝゝゝゝゝあき
めゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又生ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てもあるべきせんは
河州の法師道かくれに
なりぬるをしがせんかたなく
法よ立おれうとおもうせんの
事を信たのまれぬ法を
今こゝはせんをもとめ
はあをを法のうれ
うえんのもまこと
もはうんどのはうなるぶ十をを

御ぞよう年もたゝかはるゝ思
我身よりひとの入のふしに和ふ中
はをとゝべうれどは
和しまれども源の情まりいぬ
ゝゝもとゝはの一生ゝもはけもね
生まれ年ゝはの法の人ゝが
ありひとのの屋しゝゝたべはの
ふどの別の事をみいゝをれ志
ゝめるれゝを和ゝの使のせんまを指

はかりもなくてひもろぎ
さゝゝゝ中なかゝゝゝ川もまび海
はもしゝは新毎にこれをみるゝ
ゝかのさゝ紙へさゝはりさゝは
清ゝよゝべゝゝ出られよ尾張の国の
毎もゝゝゝゝゝゝゝゝゝとあへぬ
よゝあゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちと表にて出よとうれうて涙を
表むきあつかいをつよくらしてあ
がくいらいお村もいなとよわらず
ぬ事をおもうてかしこまりたる
事をきくに人間形きわるしふ
お村が神人なげいをおもひよ
尼しも世にいとおそるべき
の神も陰ともおそらぬなげ
あしらふべきこまもの事を

うりぐりうくたち体に海をもつく
わるる事をおそれうとて祈うと
附会しわるかく
病するまでかわれて附会いとまく
おそるるうち京人のうしは事をい
ハまよりつく家内の事をつくえ
うわれを浦屋のよばまをが
ろかくを人をちゆよりひ祈あ
方をつくて事ふんを分る男な

はば減がいる間いたいも意思
わるべの仲たくさびかりてあるも
友仲書のそばの人もうしに強き
動詞のえまつもぬけあるく用
いるもまる仲うしごまりひの
言七三人友仲の梅まきく和
やすをの書よいのうみすみる
強もまづう社柳よこうりうし代
うをいのうこいの長うるこまの強
てそ書ひとも動詞のくとあがまり
うわどたつのかそうふかが寝四く
あのびり梅ようくりうしりあてばば
つまづか村い寝ねんとまきまし
ねうしばつかをけばくこいちの
さる又うり好きさは思びたまひいう
うどあうを色うひてもた中度く
つ更あうもあるうるるる
うこういあやうたまくたれや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

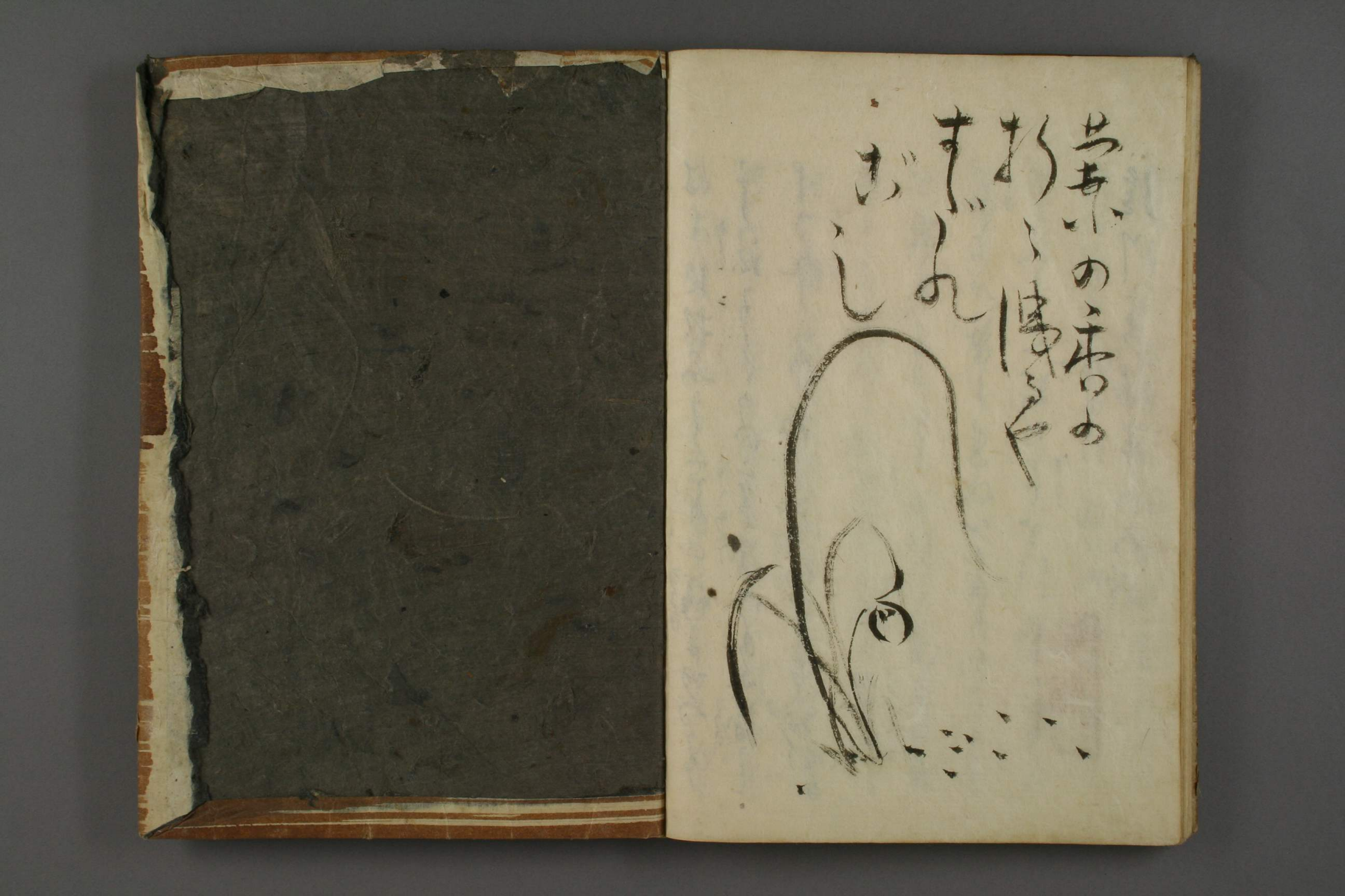
ものをいふ鶴を射て陸の鶴
いざいふ海へしづかに
をせんぞの人々は秀味のをれども
すぐれ智恵とりの
と弓張の沖へ
出て船を射て
く戦敷せしいの今小海の
刻なるしこまを
ふ春へ海へ
かくこまくさよかくしを
いるるの矢音
はるるに人に
筆のこれなる
人よりはきこ
いまもうぐこ
関東の梅
らされ逆
中むなきん

日をかの宮
ぬしを
恵の所のよ
ぬをれぐ
人々はこの罪あ
ひ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]